

2-10

主題 認知症対応型デイサービスにおける環境づくり

認知症の方に対する環境づくり

副題 「みんながほっとできる団欒の場」を目指して

研究期間 7ヶ月

事業所 通所介護・マザアス氷川台

発表者：宮川利恵・村岡亜衣

アドバイザー：

共同研究者：

電話 042-477-7263

メール higashikurume@moth.or.jp

FAX 042-477-7260

URL http://www.moth.or.jp

今回発表の  
事業所や  
サービスの  
紹介

地域密着型認知症通所介護「湧泉の郷」は、特別養護老人ホームなどがある建物の3階にあり、通所介護に併設されています。1日の定員12名に対し、2名の職員が配置されており、認知症や精神疾患により個別のケアを必要とするご利用者が通所されています。

今回は、同じ法人の特別養護老人ホームでの環境づくりの取り組みに使用された「認

## 《研究前の状況と課題》

認知症対応型のデイサービスである湧泉の郷に通所されるご利用者は、認知症の周辺症状として、「早く帰りたい」と不安を訴える方、イライラや混乱が見られ攻撃的な方など様々で、精神状態に合わせて個別のケアを行っています。

しかし、デイルームの環境が整備されておらず、集団の中で個別ケアを行っている現状がありました。また、業務的な物や不用品が多く、雑然とした環境のため、ご利用者が心地よいと思える空間ではなかったと言えます。業務で必要な荷物を取り除くために、職員の出入りが頻繁に見られ、視覚的な刺激も多い状態でした。

このような環境の中で、認知症ケアを行っていくことに疑問を感じていました。

## 《研究の目標と期待する成果》

認知症のご利用者が落ち着かれない時などに、集団の中から少し離れ、個別ケアを行えるような空間を作る。また、「みんながほっとできる団欒の場」を作り、家庭的な雰囲気の中で1日を穏やかに過ごしていただくことを目指し、環境改善に取り組みました。

《具体的な取り組みの内容》

「認知症高齢者への環境支援指針（PEAP日本版3）」を参考に、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の6ステップに沿って環境づくりに取り組みました。

期間は平成21年4月～平成21年10月までです。

〈ステップ1〉

認知症ケアと環境の理解を深めるため、PEAPの内容を勉強するとともに、ご利用者の生活歴や好きなことなどの情報を集め、環境改善に活かせるような情報をピックアップしました。

〈ステップ2〉

環境課題をとらえて整理するため、ダイルーム内を写真に撮り、環境改善の課題を抽出したところ、PEAPの視点から見ると、見当識への支援、環境における刺激の調整、安全と安心、生活の継続、自己選択、触れ合いの促進などの多くの次元において、認知症高齢者にはふさわしくない環境だということが分かりました。

〈ステップ3〉

ステップ2で上がった課題を改善する為の計画の立案を行い、「みんながほっとできる団欒の場」をテーマに環境づくりに実際に取り組みました。

〈ステップ4〉

ステップ3で立てた環境づくりの計画について、今回はすぐに改善する必要があるものを実

《取り組みの結果と評価》

ステップに従い、環境改善を実施した所、以下のような変化が見られました。

- ・不適切な刺激が少なくなったことにより、以前より落ち着いて過ごすご利用者が増えた。
- ・ご利用者同士の会話が増えた。快適になった空間で静かに過ごすことを好まれて、一般のデイサービスのご利用者の訪問が増えた。
- ・ソファーにご利用者とゆっくり座って話せる場となり、より身近なケアが行えるようになった。
- ・ご利用者のADLや希望に合わせ、2つのプログラムを行えるようになった。
- ・椅子の位置が変わったことなど環境の変化に戸惑われるご利用者もいた。

これらをPEAPの視点から見ると、見当識への支援、環境における刺激と質の調整、安全と安心、生活の継続性、自己選択への支援、触れ合いの促進といった多くの次元において、認知症高齢者にふさわしい環境へと改善されたことが分かりました。

《まとめ》

今後の課題としては、新しいスペースが増えたことで、より安全確保が必要となり、また個別ケアの質の向上が求められるようになったと思います。また、今回は実施できなかったこととして、イライラや混乱が見られるご利用者に視覚や聴覚の刺激を減らして、

《提案と発信》

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。